

中学生記者が仕事を
体験します！

美術館学芸員

ってどんな仕事？

絵画や資料の収集、展示、研究、整理、
保存のほか、企画展の提案や作家の選
出、作家とのやりとり、展示告知、イ
ベントの運営も行います。

私たちが体験しました！



普段から絵を描くのが
好きで、美術館にもよ
く行きます。美術館の
裏側がどうなっている
のか知りたいです。

中学1年生
高島桃音さん



学芸員さんがどんな
仕事をする人なのか
よく分からないので、
詳しく学びたいと思
います。

中学1年生
岡崎巴菜さん

仕事1 企画展の展示

吉祥寺美術館の企画展では、企画段階から実際の展示ま
で担当の学芸員が関わります。多様なジャンルを表現す
る企画展の展示方法を学びます。



▲それぞれの作品の特徴
やサイズに合わせ展示方
法を考える



▲取材時、企画展示室では「土田
圭介鉛筆画展」が開催中



▶通常展示の場合、絵の中心
が床から約150cmの高さに
展示（子ども向けはやや低く
／左の岡崎さんの手の位置）

キャプションづくり を体験

展示では、作品ごとに
キャプション（作品タ
イトルや年代など）を
つけていきますが、こ
れも学芸員の仕事です。



▲作品のイメージに合わせてキャ
プションを作成する



▲作成したキャプションをのり付き
パネルに貼ってカッターで切る

パネルが厚く
てなかなか
切れない…



MUSASHINO
SHIGOTO ZUKAN

今年は開館
20周年！



武蔵野市立 吉祥寺美術館

2002年、日常生活と文化・
芸術を結ぶ場として吉祥寺の
まちなかに誕生した武蔵野市
立吉祥寺美術館。武蔵野市ゆ
かりの画家・野田九浦をはじ
め、日本画、油彩、版画、写
真など約250点の作品を収
蔵しています。館内は、常設
展示室と企画展示室、市民の
創作発表の場「市民ギャラ
リー」などで構成され、講演
会やワークショップなども開
催されます。

武蔵野市吉祥寺本町
1-8-16 コピス吉祥
寺A館7階
Tel.0422-22-0385



シヨップやトークイベントの運

や水族館なども同じです。

それは美術館だけでなく博物館

事をする人なんですか？

岡崎さん

学芸員とはどんな仕

滋野さん

美術館の学芸員は、

まだあまり知られて
いない作家の紹介や、
新しい切り口での
作品の見方を示して、
美術の楽しさ、奥深さを
伝えたいです



吉祥寺美術館学芸員 滋野佳美さん



吉祥寺美術館学芸員
阿部彩乃さん

仕事3 企画展の告知

企画展開催の数カ月前からテレビ局や新聞社、出版社などに資料や案内のチラシを郵送して告知するのも大切な仕事。1通ずつ手作業で封入を行います。



▲企画展の案内には、興味を持ってもらうための情報を盛り込む

数が
多くなると
大変!



▲封筒のサイズに合わせて案内のチラシをきれいに三つ折りに



▲案内のチラシと封を切らずに中身が分かる専用の封筒

体験を終えて



ただ展示をするのではなく、工夫をしながら作品の良さを伝えていてすごいなと思いました。美術館の見方が変わりそうです。(高島さん)

学芸員の仕事が幅広いことに驚きました。作品や作者について調べるなど、常に勉強が必要な仕事だと思いました。(岡崎さん)



仕事2 常設展の展示

銅版画家・浜口陽三と木版画家・萩原英雄の作品を記念室で常設展示しています。作品の手法や特徴、作家の思いを分かりやすく伝える展示方法を目指しています。



▲風景作品から抽象作品まで代表作が展示されている「萩原英雄記念室」



▲「この版画作品では、理科の授業でも使う雲母を染料と一緒に使っています」と滋野さん



本当
キラキラ
してる!

▲角度を変えるとよく分かると教えてもらい、斜めから鑑賞

絵画の展示方法を学ぶ

平面作品は基本的にワイヤーでつるして壁に展示します。1本のワイヤーで約50kgまでつるすことが可能。金具を外すと盗難防止用のプザーが鳴るタイプも。



▲ワイヤーにフックの付いた金具をねじりながら取り付けます



▲ワイヤーとフックは数種あり、作品の重さなどによって変更

営、作品の集荷・返却など、たくさん細かな仕事を学芸員が行っています。現存の作家の企画展を開くときには、どのような展示にするのかを作家と一緒に考えながら進めていきます。

高島さん 亡くなっている作家の企画展ではどうしていますか？

滋野さん その作家に関する資料を、手紙や日記に至るまで可能な限り調べ、関係者への取材もします。その上で改めて作品と向き合っていくと、人となりや次第が見えてきて声も聴かえてくるような気がします。この仕事をしていて楽しいのは、そういう瞬間ですね。

岡崎さん 作品を観るときの「正解」ってあるんですか？

滋野さん ひとつだけの「正解」はありません。作家は、作品を通して「生きるということとは？」など、さまざまな問いを私たちに投げかけています。自分はその作品から何を感じるのか、作家とお話する気持ちで向き合ってみてはどうでしょう。

高島さん・岡崎さん とても勉強になりました。ありがとうございました!